

爽秋

そら
しゅう

肌寒くなる手前の、さわやかで心地よい秋を表す季語。残暑で暑く感じた日々が終わり、秋の空気の澄明に感じます。



九月の残暑を雨不足により、ねぎたちの生育にも大きく影響し、お届けの制限をするなどご迷惑をおかけしております。九月下旬、ようやく朝晩に冷えを感じ、生育に期待します。

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

お待たせしました、秋葱のお届けです

7月の猛暑の中で定植を行った、美山・丹後のねぎのお届けがメインです。8月頃に立派に育った状態の夏葱を、根本だけ残して1度カットして収穫し、それから2か月が経ち、再び伸びてきたものにもなります。



少し前にも感じる当時を思い出すと、遅れていた梅雨の入りまでの貴重な晴れ間を狙って、作業を急いだり予定を変更したりして、ねぎが最も良い環境や状態で育つようにと奔走していました。生命力を感じる、秋の始まりを告げる秋葱です。

農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信

かん水して、畑全体に水の恵を！



収穫後。この青カゴが大きなトラック1台に収まります。

真夏とは異なる残暑、続く雨の恵不足

今年は8月に続いて9月の残暑が長引き、と京都府下ではほとんど雨の降らない日が多かったです。酷暑と干ばつに、農人たちは苦しみられました。雨予報が出ていたと嬉しかったものの、結果的には予報が外れ、期待していた雨が降らなかったことも... 自然の恵が少ない時期でしたが、少しでも畑のねぎたちの成長の一助になればという思いを持ち続け、追肥（葉面）や灌水作業を行いました。比較的暑さという面においては慣れてきてはいる農人たち。ですが、猛暑日が1か月近くも続くと肉体的疲労も蓄積してきて、残暑を乗り越えるためには、また違った負荷がかかりました。そんな中でも先を見据えて、9月頃から来年の春作に向けた定植作業も始まっています。3月頃までに収穫するねぎは、10月前半頃までに定植を行う必要があるため、農人たちは慌たしい日々を送っています。

とある日の農人日記。

朝一番に収穫に入ると、多少ですが朝露で葱が濡れていました。八月末の台風以降、なかなか雨が降らない中、雀の涙かもしれないですが、少しでも葱が潤っていることを願いました。（丹後・浅尾）

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

ことねぎだより

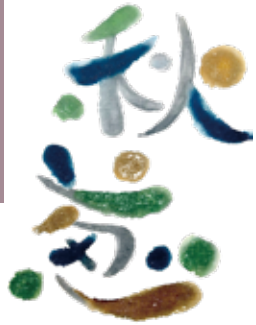
NO.209

2024年10月号

TEL: 075-601-0668



KOTO GROUP
4A



こと京都は「野菜を食べてよう」プロジェクトのサポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組めます。